

2026年4月16日

電通「こどもの視点ラボ」、愛知県豊田市と こどもにやさしいまちづくりの推進に向けた連携協定を締結 － こどもの視点の体験機会を広く市民などに提供 －

株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：松本 千里）において、「大人がこどもになってみる」をコンセプトに、国内電通グループ横断でこどもの当事者視点で研究を行う専門組織「こどもの視点ラボ」※は、愛知県豊田市（市長：太田 稔彦）と、こどもにやさしいまちづくりの推進に向けたこどもの視点の体験機会の提供等に関する連携協定（以下、本協定）を本日締結しました。



締結の様子（2026年4月16日）

（左から）豊田市：太田 稔彦 市長

電通「こどもの視点ラボ」：石田 文子、沓掛 光宏 共同代表

<背景と目的>

近年、こどもの安全や育ちに関する社会的な関心が高まっており、行政だけでなく地域全体でこどもを支える取り組みが求められています。特に、こどもの行動や感覚を大人が正しく理解することは、こどもの生活環境をより良くするための重要な基盤となります。しかし、日常の中でこどもの視点を具体的に体験できる機会は限られており、理解の差が課題となるケースは少なくありません。

電通「こどもの視点ラボ」は、2021年の発足以来、「大人がこどもになってみる」ことでこどもへの理解を深め、親と子、社会とこどもの関係をより良くしていくことを目指して活動しています。また、豊田市は、2007年に「豊田市子ども条例」を制定し、こどもの権利を尊重したまちづくりを継続的に進めている自治体です。

本協定は、こどもの視点ラボと豊田市が相互に連携・協力し、こどもの視点の体験機会を広く市民等に提供するとともに、市民参加型のイベント等を通じて得られる意見を、こどもの視点に関わる取り組みや研究活動へつなげていくことで、こどもを取り巻く環境の質的向上を図り、こどもにやさしいまちづくりの推進を目的としています。両者は本協定に基づき、「こどもの視点教室」や「大人ランドセル」などの体験型施策、市民参加型イベントを通じた意見の収集、「こどもの視点ラボ」の研究活動で得られた知見の活用など、次の連携事項に取り組みます。

<本協定に基づく取り組み>

連携事項	取り組み
こどもの視点の体験機会の提供	講演と体験で構成される「こどもの視点教室」の実施や研究機関監修・データに基づく体験コンテンツを活用。「大人ランドセル」等の体験コンテンツを作製し、市が啓発活動で随時活用できる状態で提供。
市民参加型の取り組みを通じた意見収集	市民参加型イベントで体験・啓発活動を実施し、イベント会場等でアンケートを行って市民の意見を収集。
こどもの視点に関わる研究・実証への協力と、研究成果・知見の共有および活用	こどもの視点ラボが行う研究に関する実証への協力や体験を通じて得られた市民の声・データを研究へ活用。こどもの視点ラボの研究活動で得られた知見を提供し、市の啓発活動や施策検討へ助言・監修を行う。
市職員等に向けた学びの機会の提供	こどもや子育ての施策に関係する豊田市職員が、こどもの視点を学べる体験機会の提供。

今後は、こどもの視点を踏まえた研究や体験事業を継続し、市民や行政、教育機関などとともに、地域全体でこどもにやさしい社会づくりを進めることを目指します。電通は、こどもの視点ラボを中心に、こどもの視点を起点にした取り組みを各地へ広げ、地域社会に役立つ活動を継続していきます。

※こどもの視点ラボ：「こどもの当事者視点とはどのようなものか」を真面目かつ楽しく研究している国内電通グループ横断ラボ。

「大人がこどもになってみる」ことでこどもへの理解を深め、親と子、社会とこどもの関係をより良くしていくことを目指して活動しています。<https://kodomonoshiten.com/>

以上

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通コーポレートワン ブランディングオフィス 広報室 広報部

河南、長谷川、李

Email : koho@dentsu.co.jp

【事業に関する問い合わせ先】

株式会社電通 こどもの視点ラボ

dentsu

tokyo/osaka/nagoya

沓掛、石田、尾崎

Email : info@kodomonoshiten.com